われわれは遺族の相互扶助、道義の高揚につとめ、平和日本建設に寄与し、戦争の防止、世界恒久平和の確立を期するを信条とする。

いさお新聞

発行所　〒703-8272
岡山市中区奥市3-22　岡山県遺族連盟
電話代表　086-271-7175
ＦＡＸ　086-271-4815
郵便振替岡山01230-9-3532
発行責任者　岸本清美
編集責任者　豊島始男
印刷所　西尾総合印刷株式会社
定価（郵税共）年額1,200円
ホームページ http ://izoku-okayama.jp/

戦後七十年の節目を迎えるにあたり

今年もあと僅か、戦後七十年の節目の年を迎えることとなった。

岡山県遺族連盟では、十一月十五日に岡山県戦没者遺族代表者大会を開催し、総理の靖國神社参拝の定着をはじめ、遺族処遇改善、孫や曾孫を中心とした組織づくり等々、満場一致で決議したところであるが、過去から現在まで、少しづつであるが改善されてきたご遺族の処遇を除き、私たち遺族会の思うところとなっていないのが現実である。

あの戦争が終わってから七十年になろうとしているが、「靖國神社に（所謂）A級戦犯が自分の父と一緒に祀られていることに異議あり」との声が県大会であがったように、戦争の傷跡は未だにご遺族の心の中に深い傷として残っている。先の大戦の歴史観、そして戦没者の慰霊顕彰は別次元の問題と考えるが、やはり理屈では割り切れないものがある。

〝戦争の記憶が遠くなり、その心が癒され、全てが歴史となるには百年の時が必要〟との歴史学者の言葉どおり、心の傷痕が癒えるには長い歳月が必要である。

今年、全国で約五十一万人、岡山県だけでも約一万三千余の将兵が戦死・戦病死した地であるフィリピンへの慰霊巡拝を計画した。しかし、関係ご遺族が多いにも拘わらず参加希望者は僅かという結果となり、やむなく事業を延期せざるを得ないこととなった。「一週間近くかかる海外巡拝は体力的にもう無理になった」という声が多い。戦後七十年、そういう時代が到来している。

そのための組織の継承である。平成二十六年度の活動方針・事業計画に掲げ、県大会においても〝孫や曾孫の組織化を進める〟ことを全会一致で決議した。戦後が遠くなり、英霊顕彰への関心が随分薄い世代が対象である。加えて、子や孫は都会に出て帰ってこない核家族の時代、過疎化で限界集落という地域も多くある。「組織化は到底無理、これからは地元にある慰霊碑の公的管理を中心に運動する」との声も聞く。孫や曾孫の組織化は長い時間と体力を要する課題である。

衆議院が解散し総選挙が行われたことから、来年度の政府予算案は第三次安倍内閣のもと、来年一月十四日の閣議で決定される予定であり、政府・与党は年末返上の予算編成作業と報道された。

遺族会の最重点要望事項は勿論、特別弔慰金の継続・増額である。遺族会組織の存続は、この特別弔慰金にかかっていることはご承知のとおりである。八月末の概算要求に支給事務費が計上されたが、あくまで要求であり、その実現はこれからが勝負である。我々遺族会は力を緩めず、継続・増額実現に向けて最善を尽くさなければならない。

来年はいよいよ戦後七十年。戦後の混乱期に創立して以来、遺族会は英霊顕彰と遺族援護を中心に運動を進めてきたが、敗戦国という戦後の日本の歩みの中で、漸く遺族諸問題解決のチャンスが到来している。靖國問題をはじめとする諸課題の解決は、この時代に解決できなければ、もうこの先は絶対できないとの覚悟を持って遺族運動にあたらなければならない。会員各位の支援をお願いする。

英霊顕彰運動の経緯

（平成26年５月以降の概要）

(1)　５月５日、６日の両日、岡山県護國神社で行われた春季慰霊行事に参列された各界代表は次のとおり。（敬称略）

○岡山県副知事　木幡　浩
○岡山県議会議長　渡辺英気
○国会議員
逢沢一郎、加藤勝信（代理）、阿部俊子（代理）、橋本　岳、山下貴司、池田道孝（代理）、石井正弘（代理）、平沼赳夫（代理）、片山虎之助、柚木道義
○岡山県議会議員
戸室敦雄、千田博通、河本　勉、古山泰生、岡崎　豊、小田圭一、伊藤文夫、遠藤康洋、小林健伸、佐藤真治、小倉弘行、波多洋治、蜂谷弘美、浅野　實、江本公一、中塚周一、渡辺吉幸、池本敏郎、木口京子
○岡山県町村会会長　河島健一（久米南町）
○市町村議会議長　森岡聰子（笠岡市）
○市町村議会議員
松島重綱（岡山市）、和気　健（岡山市）、川本浩一郎（岡山市）
○岡山県神社庁庁長　河本貞紀
○岡山偕行会会長　鳴海　榮

(2)　７月11日午前、安倍晋三内閣総理大臣はパプアニューギニアを訪問し、ウエワクにある「ニューギニア戦没者の碑」において夫人と共に献花し黙祷を捧げた。日本の総理大臣がニューギニア戦没者の碑を訪れるのは初めてのこと。

安倍総理は献花後、「家族の幸せや祖国を思い、遠いこの地に倒れた方々の犠牲のうえに今日の平和と繁栄がある。敬意と感謝の気持ちを込めて手を合わせた」と記者団に語った。

安倍総理夫妻は午後、ウエワク市内のボーイズタウン（ミッション・ヒル＝洋天台）を訪問し、パプアニューギニア政府が同地に建立した戦没者慰霊碑の除幕を行った。

(3)　今回の安倍総理のパプアニューギニア訪問に際し、日本遺族会の尾辻秀久会長、森田次夫・増矢稔両副会長、宇田川剱雄常務理事、上村祥子評議員、ニューギニア戦友遺族会の堀江正夫会長らが参列し総理を出迎えた。

式典では、参列者全員がパプアニューギニア及び周辺海域で戦没された全ての英霊に尊崇と感謝の誠を捧げ、世界の恒久平和の実現と共に両国の友好親善を深めた。

(4)　７月13日、自民党の高村正彦副総裁が５月上旬に訪中した際、中国側要人に「安倍総理はもう靖國神社には行かないと思う」と伝えていたことが共同通信社の取材で明らかになった。

高村副総裁はどの要人に対してかは明らかにしていないが、会談で「首脳会談が実現し、日中関係が進展すれば総理が靖國神社に行くことはないと思う。安倍総理が約束することではないが、私はそう思う」と指摘した。相手側は聞き置いたとの反応だったという。

７月14日、安倍総理の毎日新聞社のインタビューで、「それは高村さんの考えであり、よく承知していない」と述べた。また、中国が反発している靖國神社への参拝については「今後、参拝するかしないかについては申しあげることは差し控える」と従来の立場を繰り返した。

(5)　８月７日、尾辻秀久会長、森田次夫・増矢稔両副会長、畔上和男専務理事らは総理官邸を訪ね、７月11日にパプアニューギニアを訪問し、「ニューギニア戦没者の碑」に献花されたことに謝意を伝える共に、日本遺族会の基本方針である「総理の靖國神社参拝」の実現化に向けて、「安倍内閣総理大臣の靖國神社への参拝のお願い書」を手交、靖國神社参拝の実行を要請した。安

○市町村長　山崎親男（鏡野町）
○市町村議会議長　小椋晶志（鏡野町）
○市町村議会議員　松島重綱（岡山市）、和気　健（岡山市）
○岡山県神社庁副庁長　藤木知之進
○岡山偕行会会長　鳴海　榮

⑿　10月17日から20日の間に斎行された靖國神社の秋季例大祭に合わせ、安倍晋三内閣総理大臣、伊吹文明衆議院議長、山崎正昭参議院議長、塩崎恭久厚生労働大臣は、靖國神社に「大真榊」を奉納した。

⒀　靖國神社秋季例大祭期間中の10月17日午前８時、超党派国会議員でつくる「みんなで靖國神社に参拝する国会議員の会」（会長・尾辻秀久参議院議員）の衆・参国会議員191人（本人111人、代理80人）がそろって参拝した。

大祭期間中、安倍総理の参拝はなかったが３閣僚が参拝した。大臣、副大臣、政務官、衆・参議院議員の内訳は次のとおり。

＊大　臣（10月18日）
高市　早苗　総務大臣　昇殿
山谷えり子　国家公安委員長　昇殿
有村　治子　女性活躍担当大臣　昇殿
＊副大臣
小里　泰弘　環境兼内閣府副大臣　みんなで参拝・昇殿
衛藤　晟一　総理大臣補佐官　昇殿
＊政務官
武藤　容治　総務大臣政務官　みんなで参拝・昇殿
赤池　誠章　文部科学大臣攻務官　みんなで参拝・昇殿
岩井　茂樹　経済産業大臣政務官　みんなで参拝・昇殿

党派	本人	代理	計
自民党	90	70	160
民主党	2	1	3
維新の党	5	4	9
次世代の党	12	3	15
みんなの党	1	0	1
生活の党	0	1	1
新党大地	1	0	1
無所属	0	1	1
合計	111	80	191

（昨年は223人）

⒁　10月17日、菅義偉官房長官は、総理の真榊奉納について、「私人としての行動であり、政府が見解を言うべきでない」と記者会見で語った。

⒂　10月17日、中国外務省の洪磊報道官は定例記者会見で、安倍総理が靖國神社に「真榊」を奉納し、超党派の議員が神社を参拝したことについて、「中国は靖國神社を取り巻く問題で最近、日本国内で出現している否定的な動向に重大な関心を示し断固反対する」と反発した。また、洪報道官は「日本が侵略の歴史を適切に正視し、深刻に反省してこそ、両国関係は健全で安定した発展ができる」と改めて主張した。

一方、韓国外務省報道官は、安倍総理の供物奉納に関し、「慨嘆を禁じ得ない」との論評を発表した。論評は「A級戦犯を神として祀る神社に敬意と感謝を表するのは、日本が戦後、国際社会に復帰した前提と、国際秩序を否定する行為であることを日本の政治指導者は明確に認識しなければならない」と求めた。

⒃　10月17日、米国国務省のハーフ副報道官は記者会見で、安倍総理が靖國神社に真榊を奉納したことについて、「日本には近隣国と引き続き協力し、歴史を巡る懸念を対話を通じた友好的な方法で解消するよう促す」と、従来のコメントを繰り返すに留めた。

⒄　10月18日、高市早苗総務大臣、山谷えり子国家公安委員長、有村治子女性活躍担当大臣の３閣僚は、靖國神社秋季例大祭に合わせて、それぞれ昇殿参拝した。

三氏は「総務大臣・高市早苗」、「国務大臣・山谷えり子」、「国務大臣・有村治子」とそれぞれ記帳、玉串料は私費から支出且つ、私的参拝と説明した。

参拝後、高市大臣は自らの参拝について、記者団に「国策に殉じ、国の存立を守ってくださった方に感謝と哀悼の誠を捧げた。（中韓との）外交関係になるような性質のものではない」と述べた。山谷大臣も「国のために尊い命を捧げた御霊に感謝の誠を捧げた」と語った。有村大臣は近隣外交への影響について問われたのに対し、「戦地に赴き命を捧げられた方々にどのように向き合い、追悼するかは国民が決める話だ。他国に『参拝せよ』とか『参拝するな』と言われぬ話ではない」と語った。

遺族処遇改善運動の経緯

（平成26年５月以降の概要）

⑴　５月19日、森田次夫・増矢稔両副会長、畔上和男専務理事、伊藤早苗常務理事は田村憲久厚生労働大臣（当時）を訪ね、平成27年度政府予算の概算要求に本会の要望事項が反映されるよう陳情した。

⑵　６月17日、午前10時から参議院議員会館講堂において全国戦没者遺族代表148名が参集して、「特別弔慰金継続・増額実現」全国戦没者遺族代表者会議を開催した。

同会議には、土屋品子厚生労働副大臣、上川陽子総務副大臣（何れも当時）、自民党から高村正彦副総裁、逢沢一郎遺家族議員協議会会長代行をはじめ、自民党所属国会議員286名（内代理141名）、厚生労働省社会・援護局長、同大臣官房審議官（恩給担当）、総務省政策統括官（恩給担当）、同大臣官房審議官（恩給担当）らが来賓として出席した。

代表者会議終了後、各支部代表は自民党本部、国会に赴き、地元選出の自民党所属国会議員に対し、遺族会の要望事項に対する協力の陳情を行った。

⑶　７月24日、「女性部結成60周年の集い」に出席した全国の女性部代表168名は国会に赴き、地元選出の自民党所属国会議員に対し、平成27年度政府予算の概算要求に本会の要望事項が反映されるよう陳情を行った。

⑷　８月７日、遺家族議員協議会総会が自民党本部で開催され、日本遺族会から正副会長、専務理事、常務理事が出席、平成27年度政府予算の概算要求

倍総理は参拝を明言せず「（遺族会の意向は）分かった」と述べるに留めた。

⑹　８月15日の「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に安倍総理は靖國神社参拝を見送り、自民党の萩生田光一総裁特別補佐を通じて「自民党総裁・安倍晋三」として私費で玉串料を奉納した。

萩生田総裁特別補佐は参拝後、総理から「国のために尊い犠牲となられたご英霊の御霊に、尊崇の念をもって謹んで哀悼の誠を捧げてほしい。揺るぎない恒久平和をしっかりと誓ってほしい」と伝えられたと記者団に語った。

なお、閣僚等の靖國神社参拝は次のとおり。閣僚は３閣僚（当時）が参拝された。

＊大　臣
新藤　義孝　総務大臣　昇殿
古屋　圭司　国家公安委員長　昇殿
稲田　朋美　行政改革担当大臣　昇殿
＊副大臣
衛藤　晟一　総理大臣補佐官　みんなで参拝・昇殿
奥野　信亮　法務副大臣　みんなで参拝・昇殿
岸　信夫　外務副大臣　みんなで参拝・昇殿
愛知　治郎　財務副大臣　みんなで参拝・昇殿
西川　京子　文部科学副大臣　みんなで参拝・昇殿
井上　信治　環境兼内閣府副大臣　みんなで参拝・昇殿
＊政務官
小泉進次郎　内閣府兼復興大臣政務官　昇殿
藤川　政人　総務大臣政務官　みんなで参拝・昇殿
高鳥　修一　厚生労働大臣政務官　みんなで参拝・昇殿
磯﨑　仁彦　経済産業兼内閣府政務官　みんなで参拝・昇殿

このほか、野田聖子自民党総務会長（当時）、石原慎太郎次世代の党最高顧問も参拝した。

また、超党派国会議員でつくる「みんなで靖國神社に参拝する国会議員の会」（会長・尾辻秀久参議院議員）は、15日午前11時に衆・参国会議員194人（本人84人、代理110人）がそろって参拝した。高市早苗自民党政務調査会長（当時）も一緒に参拝した。

党派	本人	代理	計
自民党	68	96	164
民主党	2	2	4
日本維新の会	6	4	10
次世代の党	7	3	10
結いの党	0	0	0
みんなの党	0	0	0
生活の党	0	1	1
新党改革	0	0	0
新党大地	0	1	1
無所属	1	3	4
合計	84	110	194

（昨年は202人）

⑺　森田健作千葉県知事の靖國神社参拝

森田千葉県知事は８月15日、靖國神社に昇殿参拝された。県知事就任以来、毎年靖國神社に参拝され、今回で６回目となった。参拝の際には「千葉県知事」と記帳し私費で玉串料を納めた。

森田知事は参拝後、記者団に「日本人として誇りを持ち、二度と戦争を起こさない、平和を守って行こうという気持ちを持ち続けなければならない」と語った。

⑻　鈴木英敬三重県知事の靖國神社参拝

鈴木三重県知事は８月15日、靖國神社に昇殿参拝された。県知事就任以来、毎年靖國神社に参拝され、今回で３回目となった。

⑼　８月15日、中国外務省の華副報道官は閣僚の靖國神社参拝や安倍総理の玉串料奉納について、「断固反対」を表明する談話を発表した。また、中国が９月３日に定めた「抗日戦争記念日」に合わせて「記念行事」を行うとも発表、歴史問題で日本を強く牽制。

一方、韓国外交省報道官は、安倍総理が靖國神社に玉串料を奉納し現職閣僚らが参拝したことについて、「嘆かざるを得ない。過去を誠実に反省する時、両国民の望む韓日関係が安定的に発展できることを肝に銘じるべきだ」との論評を出した。

⑽　８月27日、安倍総理はA級戦犯やBC級戦犯とされた元日本軍人を追悼する法要に、自民党総裁で哀悼の意を伝える書面を送っていたことが分かった。

法要は、和歌山県高野町の高野山奥の院にある「昭和殉難法務死追悼碑」で４月29日に営まれ、陸軍士官学校OBでつくる「近畿偕行会」と「追悼碑を守る会」が共催した。安倍総理は書面に「今日の日本の平和と繁栄のため、自らの魂を賭して祖国の礎となられた昭和殉難者の御霊に謹んで哀悼の誠を捧げる」と記し、司会者が読みあげた。

菅義偉官房長官は27日の記者会見で、書面について「私人としての行為だ。政府としてのコメントは控えたい」と述べ、A級戦犯らに対する認識については「極東国際軍事裁判（東京裁判）で有罪判決を受けたことは事実だ。我が国はサンフランシスコ平和条約で裁判を受諾している」と説明。

⑾　10月５日、６日の両日、岡山県護國神社で行われた秋季慰霊行事に参列された各界代表は次のとおり。

○岡山県知事　伊原木隆太
○岡山県議会議長　小田圭一
○国会議員
逢沢一郎（代理）、山下貴司、阿部俊子（代理）、橋本　岳（代理）、加藤勝信（代理）、池田道孝（代理）、石井正弘、平沼赳夫（代理）、片山虎之助（代理）、柚木道義（代理）
○岡山県議会議員
千田博通、佐古信五、岡崎　豊、河本　勉、遠藤康洋、佐藤真治、小倉弘行、蓮岡靖之、波多洋治、浅野　實、江本公一、渡辺吉幸、上田勝義
○岡山県町村会会長　河島健一（久米南町）

いさお新聞　毎月十五日発行　（１１９５）

に日本遺族会の要望事項が反映されるよう陳情を行った。

(5)　８月７日、人事院は平成26年度の国家公務員一般職の月給を平均0.27％ボーナス（期末・勤勉手当）を0.15ヵ分、それぞれ引き上げるよう国会と内閣に勧告した。プラス改定はともに７年ぶりとなった。

(6)　８月29日、各省庁より財務省に概算要求が提出された。

遺族会の最重点要望事項である特別弔慰金の支給に向けて支給事務費が計上された。その他、概算要求に計上された戦没者遺族に対する処遇改善項目等については本紙９月15日号（1192号）に掲載のとおり。

(7)　10月23日、自民党の予算・税制等に関する政策懇談会が党本部で開催され、畔上和男専務理事が出席。平成27年度遺族会要望事項の概算要求が完全実現されるよう陳情を行った。

(8)　11月12日、日本遺族会の森田次夫副会長、畔上和男専務理事並びに常務理事らが塩崎恭久厚生労働大臣と面会し、遺族処遇の最重点要望事項である「戦没者等の遺族に対する特別弔慰金」が平成27年度以降も継続し、増額されるよう陳情を行った。

(9)　11月15日、岡山市中区古京町の「岡山衛生会館」ホールに岡山県下の各遺族会代表約600名が参集し、平成26年度岡山県戦没者遺族代表者大会を開催した。

大会には、伊原木隆太県知事、小田圭一県議会議長、自由民主党から逢沢一郎衆議院議員、山下貴司衆議院議員、阿部俊子衆議院議員、橋本岳衆議院議員（代理）、加藤勝信衆議院議員（代理）、池田道孝衆議院議員（代理）、石井正弘参議院議員、日本遺族会から森田次夫副会長、奥西道浩護國神社宮司らが来賓として出席した。

大会では、本年度の最重要課題である「戦没者等の遺族に対する特別弔慰金」の継続・増額実現をはじめ、平成27年度政府予算に対する概算要求に計上された遺族処遇改善事項の完全実現を決議、国会議員ら出席者に支援の要請を行った。

(10)　11月21日午後、安倍晋三総理は衆議院を解散し、12月２日公示、同14日投票の日程で第47回衆議院議員総選挙が実施されることとなった。

このため、日本遺族会は12月16日に東京都内で予定していた全国戦没者遺族大会並びに国会陳情を中止することを決定。総選挙の結果を受けて新内閣が発足後、あらためて陳情運動を行うこととした。

フィリピン地域慰霊 友好親善事業に参加して

倉敷市玉島爪崎　三宅　隆

今年は父が戦没して七十年になります。〝もう一回、父の眠るレイテの地を訪ねてみたい〟との思いから、十一月四日から十一日まで八日間の日程で行われたフィリピン地域慰霊友好親善訪問団の一員に加えさせていただきました。

全国各地から東京九段の靖國会館に集合した関係遺児は七十七名。日本遺族会の役職員六名、旅行代理店のＪＴＢ五名、総勢八十八名の大訪問団は、先ず靖國神社に昇殿参拝して旅の安全を祈願。次いで、宿泊先のホテルで壮行会に臨み、明日の出発に備えました。

日本の出発時は紅葉の好季節。しかし、常夏のフィリピンは日中の気温三十度近く。マニラ空港では当地の観光協会から歓迎のレイを受けました。

訪問団の同一行動はマニラまで。ここから目指す地域別に五班に分かれての巡拝になります。私のＥ班は、セブ、レイテ、ルソンの各島を巡るため、マニラ空港から国内線でセブ島に移動しました。

セブ島の戦闘は、日本軍守備隊とレイテ島から撤退してきた部隊、追撃してきた米軍や現地ゲリラとの間で激しい戦闘が展開されています。しかし、抵抗するも都市部や平野部を米軍に奪われ、更に制海権も失っていたため、他の島への脱出も出来ない苦しい戦いとなっています。

セブ島へ到着後、現地のバスで島西部のバランバンへ。栃木県から参加された桝澤さんの父上の慰霊祭に臨みました。空き地をお借りし、全員が協力して日比両国の国旗を掲げ、靖國神社の御神酒、花、果物などを祭壇にお供えする。桝澤さんが亡き父へ追悼の言葉を捧げた後、全員で般若心経を唱え、終わりに〝里の秋〟を合唱、御霊を弔いました。

続いて、バランバンから島東部のカルメンへ移動し、街の中の記念碑で神奈川県から参加された藤田さんの父上の慰霊祭を行いました。夕暮れ時でしたが、近くから大勢の住民が集まって私たちを見守っていました。

翌七日、セブ港から高速船で二時間余り、レイテ島のオルモック港に到着しました。レイテ島は父が戦死した島です。

昨年十一月八日にレイテ島を襲った台風三十号（呼名ヨランダ）による傷跡が今だ多く残っており驚きました。港の近くにあるバスターミナルや、市場が入っている大きな建物の屋根が剥がれたままの状態で、如何に大型の台風だったか想像できます。

オルモック近くのアルブエラの海岸で和歌山県から参加された濱橋さんの父上の慰霊祭に臨んだ後、〝コンクリートハウス〟と云われる建物を視察いたしました。元国会議員の住宅であったこのコンクリートの建物に日本軍第二十六師団の一部将兵が立て籠もり、米軍の猛攻にも拘わらず二日間持ちこたえた戦場跡です。悲惨な戦いの跡を後世に伝えたいとの持ち主の意向で、当時のまま保存しているとのことです。

視察後、オルモック市内にあるメンボワ小学校を訪問。歌と踊りで賑やかにもてなしてくれた約二百名の子どもたちへノートや衣類、帽子、ボールなどを贈り、校庭に友好の記念植樹を行いました。夕暮れ近く、子どもたちとの別れを惜しみながら学校を後にしました。

八日はマハンラグを訪ね、悲劇の山と云われるカンキポット山へ向かいました。この山麓に集結した日本兵一万数千余の殆どが、ゲリラ戦や飢餓により果てております。兵士たちの救いを求める願いが込められているのでしょうか？カンキポット山は別名〝歓喜峰〟とも呼ばれています。

そのカンキポット山が見える丘で、山田さんら東京都から参加された八名の父上の慰霊祭が執り行われました。

続いて、静岡県の大石さん、愛媛県の阿部さんの父上の慰霊地であるビリアバに移動。海岸に花を捧げて黙祷し今日の慰霊巡拝を終えました。

宿泊地のパロに向かう途中、リモン峠にある第一師団の礼拝所に寄り、線香を手向ける。そして、かつて〝死の谷、血の川〟と呼ばれたリモン川で供養。付近の戦闘で日本軍将兵ら約一万三千人が倒れ、山と川が兵士の血で染まったと伝えられています。夕刻、クリスマスキャンドルの明かりで飾られたパロの市内に入りました。昨年のこの日、台風ヨランダがレイテ島タクロバンに上陸し、フィリピン全土で死者・行方不明者が一万人以上、家屋の損壊百十四万棟という未曾有の被害をもたらしました。現地の方々には忘れられない悲しい出来事となり、今日、タクロバンで大統領が出席して一周年の追悼式があったようです。

九日、ドラッグ海岸へ。富山県の石坂さんの慰霊祭です。米軍の猛爆により、一帯が兵士の血で真っ赤に染まったことから〝レッドビーチ〟と云われた海岸です。慰霊祭の所まで少し距離があるため、皆で協力して祭壇用品を運んでいると、上半身裸の男性が「私が運んでやる」と云って手伝ってくれました。日本のような立派な住居ではありませんが、人々は皆、親切で人懐っこい方々です。

私の父は、ここレイテ島のブラウエンに眠っています。父の慰霊祭前にブラウエン地区の病院を訪問、車椅子一台を贈り大変喜んでいただきました。この病院も台風で大きな被害を被り、診療の規模は以前の半分以下と

父に近況を奉告する三宅さん
（フィリピン・レイテ島ブラウエン慰霊碑）

第47回衆議院議員総選挙
推薦候補者全員当選
岡山県遺族政治連盟

十二月二日公示、同十四日投開票の日程で実施された第四十七回衆議院議員総選挙は与党が議席の２／３を維持し圧勝した。経済政策のアベノミクス、防衛・外交等、二年間の第二次安倍内閣の姿勢・実績が信任され、山積する内外の諸懸案解決への期待感を示す選挙結果となった。

岡山県各選挙区並びに比例代表中国ブロックでは、岡山県遺族政治連盟が推薦した自由民主党公認の候補者全員が当選の栄を勝ち取った。各獲得票数は次のとおり。

【岡山第一】
逢沢　一郎氏　自前
九〇，〇五九票
【岡山第二】
山下　貴司氏　自前
七一，四三六票
【岡山第三】
阿部　俊子氏　自前
五七，六四七票（比）
【岡山第四】
橋本　岳氏　自前
九一，一八九票
【岡山第五】
加藤　勝信氏　自前
一〇五，九六九票
【比例代表中国】
池田　道孝氏　自前

遺族会の動き

平成二十六年十二月行事表

2日　衆議院議員選挙公示
3日　第6回県連盟財政問題特別委員会（県連盟会議室）
5日　美作市東粟倉支部遺族会護國神社正式参拝（県護國神社）
14日　衆議院議員選挙投開票
22日　北方領土返還要求県民会議幹事会（岡山商工会議所）
26日　御用納め
31日　大祓祭、除夜祭（県護國神社）

平成二十七年一月行事表

1日　歳旦祭（県護國神社）
3日　元始祭（県護國神社）
9日　倉敷市遺族連合協議会新年互礼会（倉敷市役所）
15日　全国戦没者遺族代表者会議（東京・自由民主会館）
16日　県護國神社崇敬者大総代・総代合同会議（いさお会館）
25日　津山市遺族連合会新年互礼会（津山国際Ｈ）

のことでした。

父の慰霊祭は、千葉県の西島さんと共にブラウエンの飛行場跡に京都府が建立した「平和の塔」前で行っていただきました。かつて、日米両軍が激しい争奪戦を行った飛行場跡は、現地の人々により綺麗に手入れがなされています。この地を訪れるのは四度目ですが、何時も身の引き締まる思いです。

父に近況を奉告し、国の平和と家族の安泰、そして、この戦いで亡くなられた日米両軍の将兵、住民ら十万余の御霊の冥福を祈りました。参加者の皆さんからも沢山のお供をいただき、心から感謝いたします。

この島で執り行う最後の慰霊祭は、三重県から参加された国見川さんの父上の慰霊祭です。東京都がタクロバンの小高い丘に建立した平和記念碑前で、お父さんに積年の想い・近況を述べられておりました。

私たちE班は二つの島で八か所、ご英霊十七柱の慰霊祭を行い、夕刻、タクロバン空港からマニラ空港へ向かいました。ローカル便は遅れるのは常と聞いていましたが、二時間半遅れでやっとマニラへ。ホテルに入ったのは深夜になっていました。明日はルソン島カリラヤでの全戦没者追悼式に臨みます。今夜、他班の全参加者がここに帰って来られます。

十日朝、バスで三時間余りかけてラグナ州のカリラヤへ。日本庭園内に日本政府が建立した〝比島戦没者の碑〟で全戦没者追悼式に臨み、異郷の地で亡くなられた日本軍将兵五十万人、在留邦人二万人の御霊の冥福をお祈りし、平和希求の誓いを新たにいたしました。

その夜、宿舎においてフィリピン大使館の方々らのご臨席のもと懇談会が催され、全国から参加された遺児の方々と交流、親睦を深め、翌十一日の夜、帰国いたしました。

訪問中、全員元気で巡拝でき、無事帰国出来たのは、やはり亡き父らの加護があったからと思います。当初は長い旅と思っていましたが、同じ境遇の遺児ばかり。直ぐに打ち解けて親しくなり、厳粛な中にも楽しさもあり、思い出多い慰霊の旅になりました。

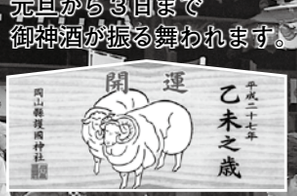
この事業は平成三年に始まったとのこと。今回の訪問では県内からは私だけでしたが、遺児の皆様には是非機会を作っていただき、肉親の終焉の地を訪ねていただきたい。多くの方が参加されることを願っています。

終わりになりますが、日本遺族会、岡山県遺族連盟、ＪＴＢ、そして参加者の皆様方に大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。

初詣
平成27年は 終戦70年の節目の年です

ご家族・お友達と一緒に
日本の平和と繁栄の礎となられたご英霊に
感謝と平和への祈りを捧げましょう

境内をライトアップ
元旦から３日まで
御神酒が振る舞われます。



大絵馬
（縦3.5m×横６m）

岡山縣護國神社
岡山市中区奥市3-21　TEL.086-272-3017
●お車　岡山駅より15分　●路面電車　東山終点下車徒歩15分
●バス　（両備バス）護国神社前下車徒歩8分
駐車場無料（約100台）